

39号/2006年6月26日発行

編集/ 医学研究科長

『心と身体のバランス』

麻酔学講座 加納龍彦

研究：生体の恒常性を維持する自己機能が麻酔下では失われる。激しく変動する呼吸、循環、中枢神経、代謝などに対応すべく、麻酔科医は患者の恒常性維持に努める。麻酔科学は細胞レベルや動物でなく、ヒトでも臨床生理的、臨床薬理的研究が可能である。医学部卒業当時、私は何等はっきりした研究の動機がなく、大学院に進む意欲はなかった。しばらくして、私にも研究の動機が生まれ、日々、臨床麻酔をしながら臨床データを取りまくった。夕方になるとその日集めたデータを医局に持ち帰り、収穫の喜びに浸った。物持ちが良く、その頃収穫した30数年前のデータを今でも使うことある。その後、臨床研究のほか、週1日の研究日にはヒトで出来ない部分を動物実験で行うようになった。基礎研究に没頭したのは振り返ってみると、米国UCSFでの1年間だけである。今でも、ラットやイヌでなくヒトからデータを取りたい衝動が強い。研究は辛い時もあるが、喜びがあり、熱中している時は我を忘れる。良い思い出になる。

大学院生：人生のなかで最も感受性が鋭く活発に活動する一時期に、研究に没頭できる時間を持ち得たことは素直に感謝すべき。第一線で活躍する快感に、しばし酔いしれるとよい。

大学院制度：授業料が高い。制度が文科省を向いているのか、何か複雑である。ただ、昨今の大学院大学の・・・系・・・学科・・・分野・・・講座と、寿限無寿限無でないことはよい。

外国留学：黒板の前で文字や絵を書きながらボスに説明したこと、研究レポートを毎週ボスに書いたこと、腋を冷汗で濡らしながら学生講義をしたこと等、ほろ苦い思い出が残る。いい研究をすることは勿論大事であるが、しっかりした研究基盤、システムなど文化の違いを肌で感じ、学ぶことに、それ以上の意義があろう。

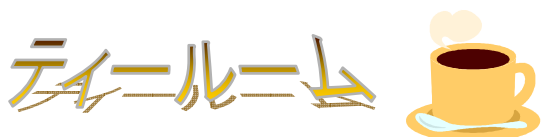
論文：書いてなんぼの世界、書き上がりの世界である。英語で書けなかったために、英語で書けなかったために、切歯扼腕した思いが幾度もある。2-3編書上げ要領が解ると、英文雑誌への投稿に燃える。しかし、英語で書いたからといって研究の内容が変わる訳でもない。母国語で理路整然とした論文を書けることも大切である。

教育、指導：教育、指導者は忍の一字に尽きる。急がず、焦らず、怒らず、我慢、成長のあかつきを夢見て、独り喜びに浸るべし。

医療：侵襲的医療には常に謙虚さが求められる。ヒトの病気の治療は部品の修理、交換の類いではない。個人を取り巻く全体像をみる。医療は社会学であるとの認識が、自分のなかでは段々色濃くなっていく。所詮、人間社会のなかで生きていくしか術はないと思うが、他人に無関心で他人への思い遣りが不足する風潮がある。

ストレス：再開したジム通い、野良仕事を正当化する訳ではないが、快樂ホルモンが出る、出ないは別にして、何も考えず体を動かし汗を流すことはストレス解消に繋がる。ヒトは元来、

そのように造られているのではないかと。



『第19回「医学教育ワークショップ」に卒後教育の議題設定！』

このシリーズもニュースレター第37号から始まり、今回で3回目を迎えた。前回(第38)号は4月上旬に発行されたが、ちょうど時を同じくして、3月30日に文部科学省から「大学院教育振興施策要綱 (http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/03/06032916.htm)」が示された。これは、今までの「新時代の大学院教育(中教審答申:昨年9月)」をさらに踏み込んで、平成22年度までに文部科学省が具体的に実施する施策の基本を示したものと見える。特に教員制度など各施策実施のため「大学院設置基準」の改正や、ポストCOEプログラムなど各種改革の検討方針などについて具体的に目標年度を掲げているなど、俗っぽく言えば、国の「意気込み」が感じられるものとなっている。実際、6月には早速「大学院設置基準」の改正を含めた学校教育法一部改正が行われるなど、その動きは加速している。

このような大学院教育に関する改革が断行されることに伴い、本学としても何らかの対応を実施することも必要である。特に今回の大学院教育改革では、人材の育成など教育面の実質化が強く打ち出されていることから、いわゆる大学院の「FD: Faculty Development (教育の質

的向上)」の実施が急務と思われる。FDとは「教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取組み」の総称であり、本学においても医学科において昭和52年から取り組まれている教育改善手法である。この手法を近年大学院においても実施する動きがあり、前述の「大学院教育振興施策要綱」において「教員組織体制の見直し」の一環として「FDの実施について平成18年度までに大学院設置基準上関係規定を置く」と明記されるなど、FD実施は不可避の状況である。

こうした一連の動きに備え、本学でも平成18年度中に大学院FDの実施を模索していたが、今般、医学部長並びに医学科教務委員長及び第19回医学教育ワークショップ実行委員会委員長のご理解とご高配を得て、本医学教育ワークショップにて「卒後教育」に関する部会を設置していただき、討論の時間を得ることができた(本ワークショップの詳細は以下のとおり)。

この機会に今まで話し合うことのできなかつた大学院教育の将来像について、参加者と時間の許す限り討論したいと考えている。

(医学研究科 科長 赤 須 崇)

第19回 医学教育ワークショップ 大学院部会 概要

1. 日時・場所: 平成18年8月8日(火)～8月10日(木) 熊本県玉名郡南関町 ホテルセキア (参加費無料)
2. テーマ: 「魅力ある大学院教育構築に向けて」
3. 目的: 「新時代の大学院において、教育・研究人材をどのように育成するか？」
「体系的な履修コースワークの策定」

※ 参加希望は医学部事務部教務課まで！！

博士課程個別最適医療系基礎科目レポート提出期限迫る！ 提出はお早めに！

博士課程個別最適医療系基礎科目を履修された方、前期レポートの提出期限が迫っています。提出先・レポート課題をご確認のうえ、所定の期日までにご提出ください。

○ ゲノムドラフトの解明

【レポート課題】第1回講義にて指示済

【提出予定日】第1回講義にて指示済

【提出先】分子生命科学研究所細胞工学研究部門（高橋）

【問合せ先】分子生命科学研究所細胞工学研究部門 0942-37-6317



○ ゲノム創薬の進歩

【レポート課題】最近よく使われる薬の作用機構について

【提出予定日】平成18年6月30日（金）

【提出先】分子生命科学研究所（児島）

【問合せ先】分子生命科学研究所・遺伝 0942-37-6313

○ 遺伝子多型(SNPs)

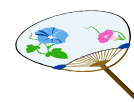
【レポート課題】International HapMap Project について（その期待される点及び問題点）

【提出予定日】平成18年6月30日（金）

【提出先】医学部事務部教務課

【問合せ先】法医学・人類遺伝学講座

平成18年度 大学院医学研究科特別講義カリキュラム (7月以降のスケジュール)



担当講座及び 講義日時		会場	講演者	講義テーマ
放射線 医学	7月6日（木） 14:00～15:30	教育1号館5階 1501教室	日本大学医学部放射線科 田中 良明 教授	放射線治療の進歩： がんはここまで治るよ うになった
医化学 ※	9月7日（木） 時間未定	教育1号館5階 1501教室	東北大学加齢医学研究所 田村 眞理 教授	ストレス応答シグナル伝 達路の生物学的意義と制 御機構
小児 科学	11月2日（木） 19:00～20:30	臨床研究棟 2F カンファレンス ルーム（4）	University College London 小 児科学講座 岩田 欧介 シニアリサーチ フェロー	Heterogeneity への挑戦： エネルギー代謝から見 た周生期脳傷害と脳保護 療法

※ 開催時間は現在未定。決定後周知する

Information

健康診断未受診者の方へ（事務連絡）

大学院医学研究科学生を対象とした健康診断は、6月23日（金）まで健康スポーツ科学センター旭町分室で実施されておりましたが、受診は済みましたか？実施期間に未受診の方は、健康診断証明書を7月末までに健康スポーツ科学センター旭町分室まで提出をお願いします。

特に、働きながら大学院に来ている社会人入学の方は、職場で健康診断が行われていますので、その結果のコピーを健康スポーツ旭町分室までご提出下さい。

癌研究助成に関連する奨学生等の募集について

財団法人 安田記念医学財団より癌の研究を目的とした「人材育成のための奨学金無償給付」応募のお知らせが届いております。対象は「医系大学院学生・看護系大学院学生」となっております。詳細は医学部事務部教務課担当：実松（旭町キャンパス内線3024）までお問い合わせ下さい。

なお、このほかの奨学金情報は教育1号館2階ホール内書架にて閲覧可能となっております。

センター通信～大学院学生の皆様へ

「第5回 バイオ統計学フォーラム」

主催：久留米大学バイオ統計センター

テーマ：「医療および臨床試験におけるバイオ統計学の貢献」

日時：平成18年9月30日（土）9:30-17:30

場所：九州大学百年講堂（中会議室1）九州大学医学系キャンパス内
福岡市東区馬出3-1-1（地下鉄「馬出九大病院前」駅下車）

参加費：大学院学生のフォーラム参加は無料

演者：折笠秀樹教授（富山大学大学院医学薬学教育部）

赤澤宏平教授（新潟大学医学部附属病院医療情報部）

Robert W. Makuch 教授

(Yale University Department of Biostatistics)

他数名予定

編集後記

大学院事務に従事し、早1年が過ぎました。様々な大学院教育改革の波が押し寄せており、これからが正念場です。本年8月に開催される医学教育ワークショップで皆様の声をお待ちしております。（俊）